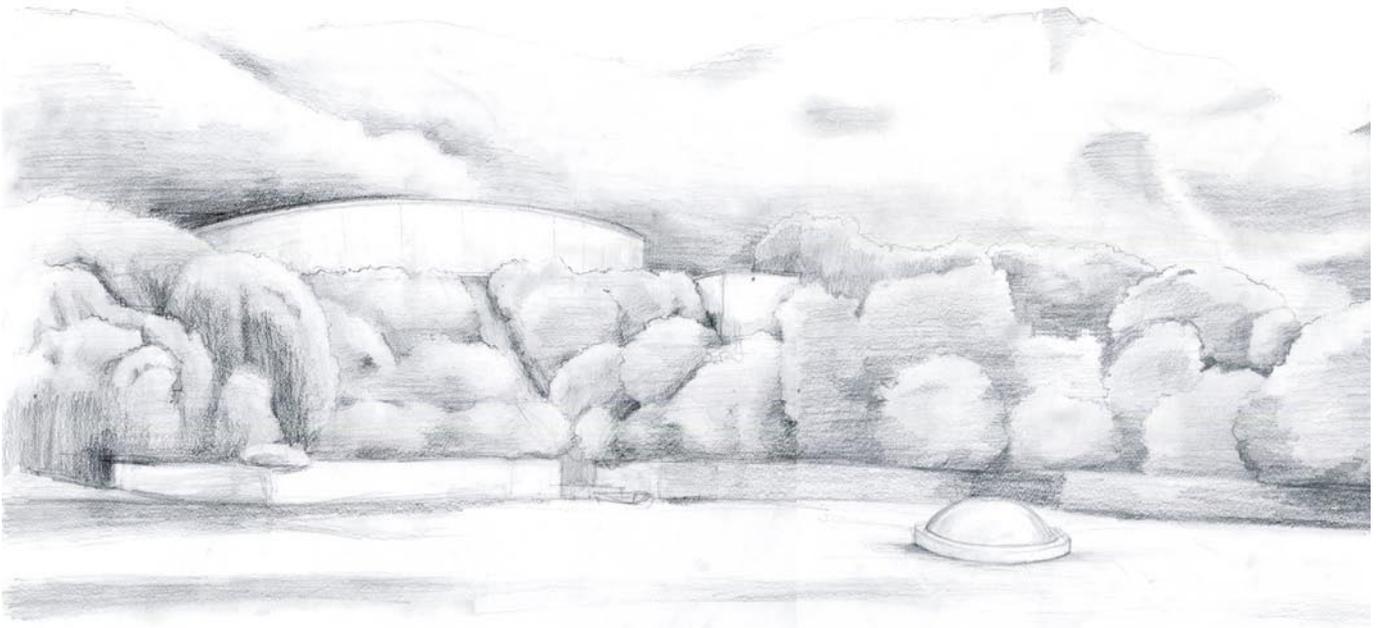


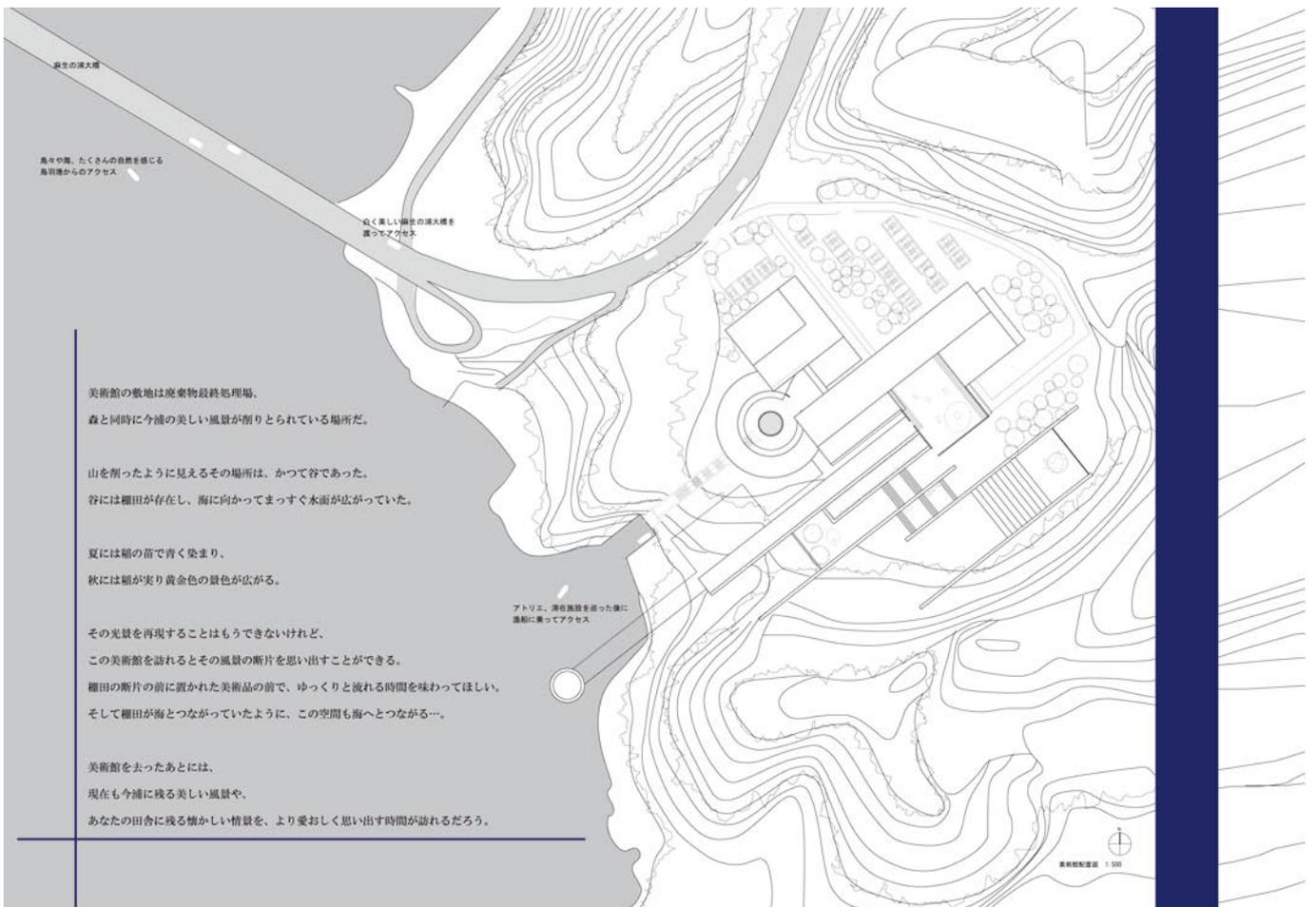
元始、入江は街であった



ほりおこして 伝える 芸術の波



鳥羽市今浦地区芸術村計画 美術館



芸術村計画における美術館の役割

1. 展示



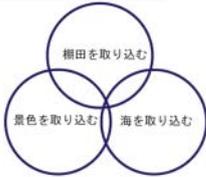
今浦町芸術村計画では、芸術村にアーティストが滞在して芸術作品を制作する。アーティストによって制作する作品は種々で、彫刻、陶芸、絵、写真、文学などが予定されている。この美術館にはアーティストが制作した作品を展示する場所である。また、村に滞在しているアーティストの作品のみでなく、外部のアーティストの作品も展示される。

2. 交流



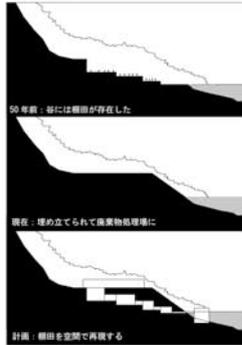
アーティストは今浦町外部から作品を制作するためにやってくる。まちの人々との接点を生むため、美術館をアーティストとまちの人との交流の場とする。また、まちの人もアーティストと一緒に作品を制作する体験などをし、生活の中にアートという分野をプラスする。そしてまちの人の人生もさらに豊かなものになってゆく。さらに、美術館にとっても美術館はアーティストとの交流の場となり、作品の制作体験が出来る。

設計キーワード



棚田、景色、海の3つのキーワードを基に設計を行う。それぞれはこの場所特有のもので、それを建物の空間体験として味あえるようにする。

1. 隠れていた棚田

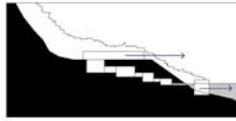


現在廃棄物の最終処分場となっている計画予定地は、山が崩れ、谷が埋められて平地になっている。50年前谷だった場所には棚田が存在していた。谷の両側は海に向かってまっすぐに伸びてゆく水田である。田植えの時期には水面が海へつながり水面に山の緑が反射する風景を、収穫の時期には黄金色の稲穂が海へむかって広がる風景を眺めることができていた。そんな棚田を、空間によって再現する。

2. 今浦の美しい景色



今浦町の景色は360度どこを見渡しても美しい。リアス式海岸独特の地形で、海を挟んですぐ対岸の山をみることができる。太陽の光を反射して輝く水面。緑のグラデーションがかけられたような山々。この景色を建物の中に取り込む。



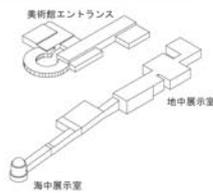
地上エントランスからは今浦の集落と海と山の美しい景色が広がり、地中展示室では棚田のような階段状につながる展示室の空間が、海中展示室へたどり着くと暗くて静かで美しい海中の景色が広がる。

3. 青く輝く海



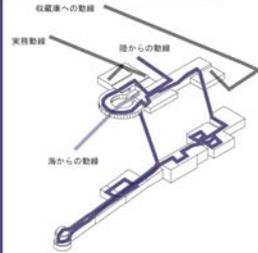
青く輝く海はアーティスト滞在施設とアトリエ、美術館をつないでいる。同時にこのまちの風景の主役でもある。まちの人々にとって当たり前の景色になっている海を、違う角度から観察することができる空間をつくる。

美術館の構成



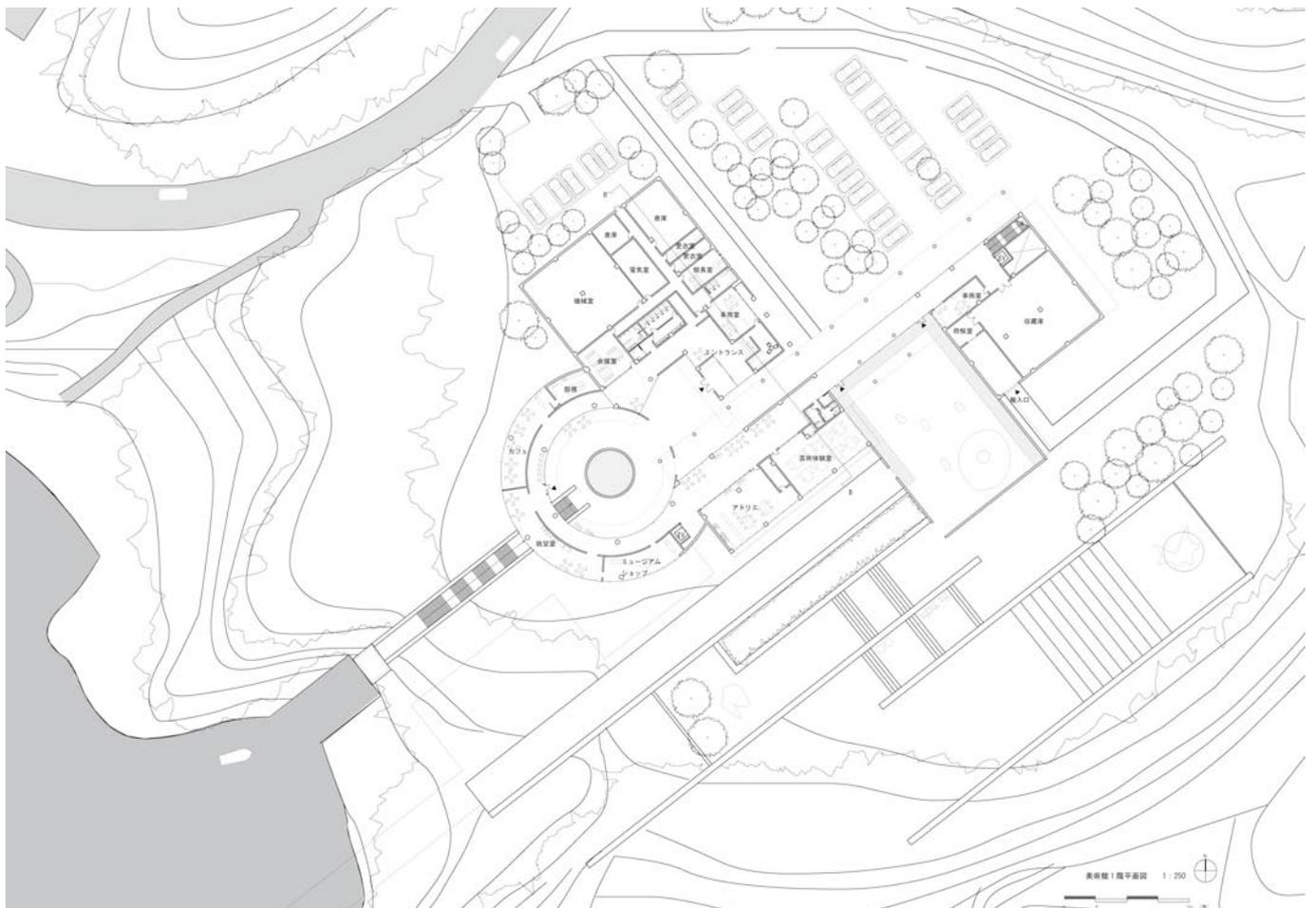
今浦の美しい景色を内部空間に取り込むガラスリングを持った美術館エントランス。棚田を建築空間によって再現した地中展示室。海底の空間を美術館として体験できる海中展示室。景色、棚田、海、各空間でそれぞれのものを取り込んでいる。

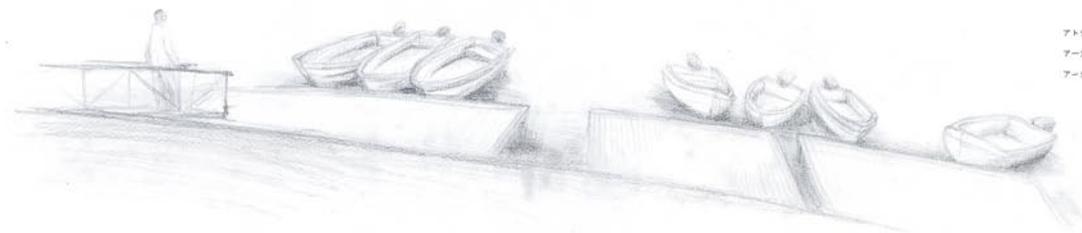
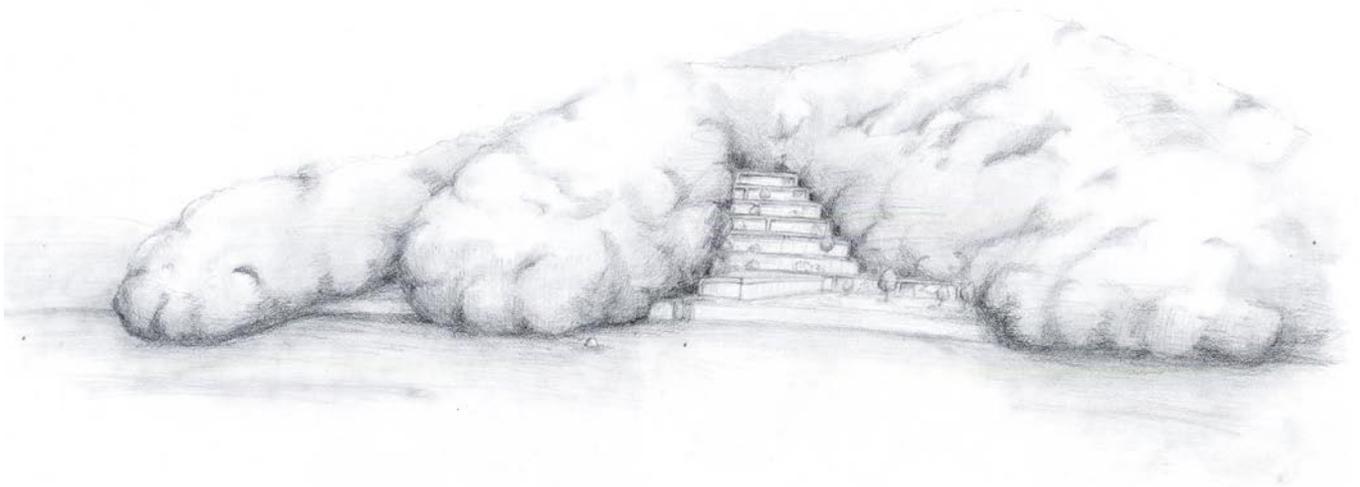
動線計画



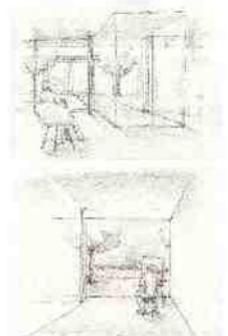
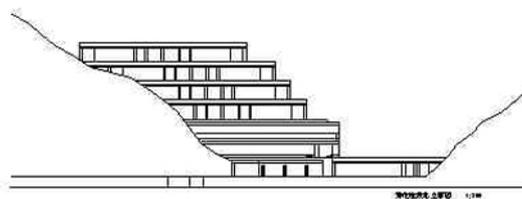
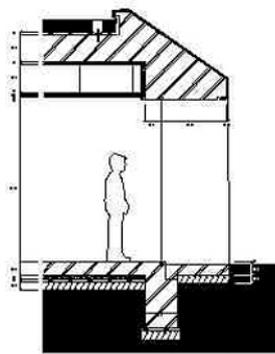
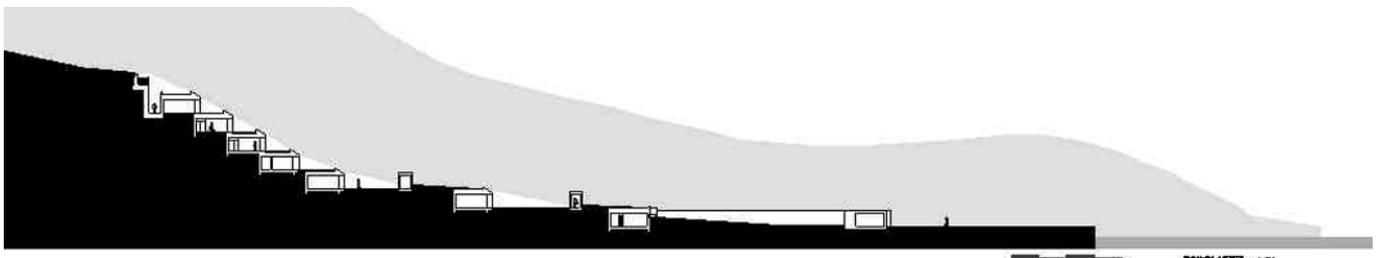
陸からの来館者
地上エントランスを一周回った後、地下へ降りていく。スロープで地下展示室を降りた後、海中展示室へ。門をスロープで一周し、先に通った道を下に見下ろしながら地上へ帰っていく。

海からの来館者
船を下りた後ガラスのリングの下を通過してエントランスへ向かう。振り返ると今浦の海と山が広がる風景を見渡せる。





アトリスの近く、美濃の中心部にある制高点から
アーティスト滞在施設を望む。
アーティストはこの階段から、舟や舟でアトリスに通う。



ギャラリーも出るのだがそれは別荘がもっていた。
少し増やしてはいるがそれは別荘。
家はあって設計通りだが、
設計通りのようにしてはいるがそれは別荘。
よく見るとアトリスと別荘の間に別荘の設計通りはいるがそれは別荘。
別荘の設計通りの設計も別荘として設計通りはいるがそれは別荘。
平地の別荘より設計通りはいるが、増やすことで設計通りはいるがそれは別荘。

新しく作った設計通りはいるがそれは別荘。
設計通りはいるが、増やすことで設計通りはいるがそれは別荘。

